

せら梨の出荷始まる

【平成 29 年 8 月 28 日掲載】

県内一の日本なし産地である世羅町では、8月18日から主力品種「幸水」の市場出荷が始まりました。21日、(農)世羅大豊農園(組合長理事：裨宜谷全(ねぎやたもつ)、経営面積41.3ha)で開催された出荷セレモニーでは、(農)世羅幸水農園(組合長理事：原田修(はらだおさむ)、経営面積64ha)及び関係機関によりテープカットをし、トラックで市場へと送り出しました。

翌22日には、両組合長理事及び関係機関が広島市中央卸売市場へ挨拶に出向き、梨のPR活動を行いました。せりの前の挨拶で、産地を代表して(農)世羅幸水農園の原田組合長理事が、「霜害、黒星病の被害が続き、ここ数年は十分な量を市場に出荷できず、迷惑をかけた。今年はこれまでの対策が実り、また好天にも恵まれ、外観、内容とも素晴らしい梨に仕上がった。果肉の成熟が先行しているため、やや青い果実を収穫しているが、取り遅れのないように、最後まで注意して収穫していきたい。伝統のせら梨が次の世代につながるよう梨づくりをがんばっていききたい。」と抱負を述べ、市場関係者へ販売への意気込みを述べました。

今回、出荷の始まった、「幸水」は9月上旬まで出荷が続き、9月中旬からは中生品種である「豊水」に切り替わり、10月上旬までの市場出荷が計画されています。



【テープカットを行うセレモニー出席者】



【市場関係者へ挨拶する原田組合長他】

情報提供元

東部農業技術指導所